

## 理工系大学のなかの人文社会系の研究拠点

未来の人類研究センターは、2020年2月に、  
理工系大学のなかの人文社会系の研究拠点として創設されました。

コロナ禍でいっそう注目されることになった「利他」を研究テーマにかかげ、

このテーマがもつ豊かな広がりにも導かれるようにして、

理工系の最先端の研究と人文社会系の本質にせまる問い、

さらには野生の思考とでもいうべき現場の知を横断しながら、

人間・社会・科学技術のあるべき姿をめぐって、研究をすすめてまいりました。

その研究成果を公開し、また「利他」について広く議論する場を設けるために、  
昨年、一昨年に続き、2日間のオンラインカンファレンス「利他学会議vol.3」を開催します。

センターにとって、この一年は本格的な対面での活動が始まった一年でした。

「利他は言葉で定義しようとすると消えてしまう。利他は具体的な行為の中にしかない」。

オンラインでの活動を余儀なくされた二年間、呪文のように唱えていたこの言葉を、

さまざまな具体例やフィールドワークを通じて再確認し、深めた一年でした。

今回のサブタイトル「一員であるということ」も、

今年ご縁があった八丈島の皆さんにいただいた言葉です。

利他とは結局一員であるということではないか、という島の方の一言が、  
多くの流人を受け入れてきた「情の島」では、ごく自然なことのように聞こえました。

この言葉を傍におきつつ、利他をめぐる議論を深めてみたいと思いました。

イベントはテーマごとに4つの分科会から構成されます。

それぞれの分科会には、外部からのゲスト2名とセンターのメンバー数名が出演します。

さらに各分科会のあとは、分科会に参加しなかった

センターのメンバーが語り合う「ちゃぶ台トーク」が続きます。

分科会やちゃぶ台トークでの議論が積み重ねることによって、

最後にはどんな利他の風景が見えてくるのでしょうか。

対話や雑談のなかから生まれる触発のライブ感をお楽しみください。

# 土地 × 記憶

分科会1 10:00-11:30 & ちゃぶ台トーク 11:30-12:00

今年は何東大震災から100年。蔵前にあった東京工業大学の前身・東京高等工業学校も  
壊滅的な被害を受け、大岡山に移転してきました。震災や戦争といった混乱を越えて  
語りかけるモノのはたらきについて、3月11日に考えます。



広瀬 茂久さん

1947年富山県生まれ。黒部川下流の農村で育ち、東京工業大学の化学科で生物化学を専攻  
した後、米国のVanderbilt大学医学部で研究員を3年間、帰国後は筑波大学で5年間、血  
圧調節機構に関する研究に従事。筑波大で遺伝子実験センターの立ち上げに関わった  
のを皮切りに、東工大に移ってからは生命理工学部の創設とそれに付随する研究施設  
の設置に尽力。130年史の編集委員を務めた関係で、2013年の定年後は東工大の資  
史料館部門の立ち上げと公文書室の設置・運営を担当。

#遺構・遺物

#歴史

このセッションの  
お申し込みはこちらから



http://bit.ly/3J7iFhg

1  
Subcommittee

福間 良明さん

1969年、熊本市生まれ。京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了。博  
士(人間・環境学)。専門は歴史社会学・メディア史。「戦争の記憶」の戦後史と  
ノン・エリート層の教養文化史が、近年の主な研究テーマ。著書に「『働く青  
年』と教養の戦後史——「人生雑誌」と読者のゆくえ」(筑摩選書、2017年、  
サントリー学芸賞受賞)、「戦後日本、記憶の力学——継承という断絶」と  
無難さの政治学」(作品社、2020年)、「司馬遼太郎の時代——歴史と大衆  
教養主義」(中公新書、2022年)など。



立命館大学  
産業社会学部  
教授

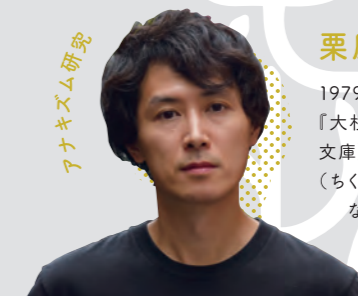
# 自然 × アナキズム

分科会3 10:00-11:30 & ちゃぶ台トーク 11:30-12:00

全体の計画も制御もないのに、ある生物の活動と別の生物の活動が  
歯車のように噛みあっていく。宇宙のこわりを生きたらどういことなのか？  
自由意志を超えたところにある相互扶助のあり方について考えます。

藤島 皓介さん

1982年、東京都生まれ。幼少時をイギリスで過ごす。慶應義塾大学環境情報学部を卒業後、2009年に  
同大学大学院政策・メディア研究科博士課程を早期修了。自ら地球外生命探査を行うべく宇宙飛行士  
になることに憧れ、2008年と2022年に宇宙飛行士選抜試験を受ける。2011年よりNASA エイムズ  
研究センター研究員、2016年に帰国しELSIで研究員などを経て、2020年10月より現職。慶應義塾  
大学大学院 政策・メディア研究科特任准教授を兼任。専門は宇宙生物学と合成生物学、生命の  
起源と進化、地球外生命探査、火星での生存圏に関連した研究に従事している。過去にはコス  
ミックフロント(NHK BSプレミアム)、又吉直樹のへうレーカ!(NHK Eテレ)などに出演。



アナキズム研究

栗原 康さん

1979年埼玉生まれ。東北芸術工科大学非常勤講師。アナキズム研究。著書に  
『大杉栄伝』(角川ソフィア文庫)、『村に火をつけ、白痴になれ』(岩波現代  
文庫)、『死してなお踊れ』(河出文庫)、『はたらかないで、たらふく食べたい』  
(ちくま文庫)、『サボる哲学』(NHK新書)、『奨学金なんて怖くない』(新評論)  
など。河内音頭、長瀬剛、「麦とホップ(黒)」が好き。

#宇宙生物学

#相互扶助

このセッションの  
お申し込みはこちらから



http://bit.ly/3kqGBes

3  
Subcommittee

分科会2 13:30-15:00 & ちゃぶ台トーク 15:00-15:30

メタバースやWeb3といった技術によって、人／キャラクターどうしの新たな  
インタラクションや、これまでにないファンダムカルチャーの形が生まれつつあります。  
そこに生まれる利他とはどのようなものなのでしょうか。

長谷川 晶一さん

1993年東工大入学。IVRC参加とVR制作(力触覚レンダリング担当)を開始。96年研究室配属、  
糸を用いたハプティックインタフェースSPIDARと出会い力触覚レンダリングと物理エンジンの  
研究を開始。97年SIGGRAPH初参加。99年知能システム科学専攻修士修了。2000年東工大  
助手。2004年バーチャルな生き物の研究を開始。2006年9月博士(工学)。2007年電気通信大学  
知能機械科。2010年東工大精密工学研究所准教授。EuroHaptics2004、EuroGraphics2004  
Best Paper Awardなど受賞。IVRC(Interverse  
Virtual Reality Challenge)実行委員。VR学会大会  
では2019年にプログラム委員長、2022年に幹事を  
担当。2021年12月にメタバースVR Chatに入り  
衝撃を受けつつ現在に至る。



東京工業大学  
科学技術創成研究院  
准教授

このセッションの  
お申し込みはこちらから



http://bit.ly/3J82QAn

柳澤 田実さん

1973年ニューヨーク生まれ。専門は哲学・キリスト教思想。博士(学術)。関西  
学院大学神学部准教授。東京大学21世紀COE研究員。南山大学人文学部准  
教授を経て、現職。編著書に「ディスプレイーション——哲学、倫理、生態心理学  
からアート、建築まで、領域横断的に世界を捉える方法の創出に向けて」  
(現代企画室、2008)、2017年にThe New School for Social Researchの  
心理学研究室に留学し、以降Moral Foundation Theoryに基づく質問紙  
調査を日で行いながら、宗教などの文化的背景とマインドセットとの関係に  
ついて、何かを神聖視する心理に注目しながら研究している。



関西学院大学  
神学部 准教授

# 推し × デジタル

#メタバース

#聖性

分科会4 13:30-15:00 & ちゃぶ台トーク 15:00-15:30

モノの物理的なデザインや仕組みの設計によって、  
人のふるまいや経験は大きく変わります。  
学びのなかに遊びがあり、遊びのなかに学びがある。  
そんな「ともに楽しむ仕掛け」の作り方について考えます。

桂 大介さん

1985年生まれ。早稲田大学在学中の2006年に株式会社リブセンスを共同創業し、2012年に東証一部  
(現東証プライム)へ史上最年少で上場。その後は非営利と営利とを問わず寄付活動をはじめ、2019年から  
推薦や投票によって寄付先を決定する共同贈与コミュニティ新しい贈与論を運営。共同性や偶然性によって  
導かれる、ままたらない寄付を設計・実践している。



一般社団法人  
「新しい贈与論」代表理事

会田 大也さん

1976年生。ミュージアム・エデュケーター。東京造形大学、情報科学芸術大学院大学  
[IAMAS]修了。ミュージアムにおけるリテラシー教育や美術教育、地域プロジェクト、  
企業における人材開発等の分野で、ワークショップやファシリテーションの  
手法を用いて「学校の外の教育」を実践してきた。一連の担当  
企画にてキッズデザイン大賞や、文化庁メディア芸術祭、  
グッドデザイン賞などを受賞。  
東京大学大学院GCL特任助教、あいちトリエンナーレキュレーター(ラーニング)  
などを経て、2019年より山口情報芸術センター[YCAM]学芸普及課長。



ミュージアム・エデュケーター

このセッションの  
お申し込みはこちらから



http://bit.ly/3D7HaAk

すべての分科会とちゃぶ台トークに、未来の人類研究センターのメンバーが登場します

## 参加方法

○ウェビナー視聴方法:利他学会議中に開催される4つの分科会+ちゃぶ台トークのうち、視聴ご希望のセッションごとにお申し込みいただく必要があります。上記の各セッション下に記載されているURLまたはQRコードからウェビナー登録画面に飛び、必要事項を記入してお申し込みください。  
受付は3月10日(金)までです(先着順)。なお、イベント終了後のアーカイブ公開については未定です。  
○セッション1:3月11日(土) 10:00-12:00 分科会1 & ちゃぶ台トーク ○セッション2:3月11日(土) 13:30-15:30 分科会2 & ちゃぶ台トーク ○セッション3:3月12日(日) 10:00-12:00 分科会3 & ちゃぶ台トーク ○セッション4:3月12日(日) 13:30-15:30 分科会4 & ちゃぶ台トーク